



テンパス

TEMPUS

2024年(令和6年) **82**号



要(かなめ)家文書には「日録(にちろく)」・「日記」と墨書きされている横帳が多数のこされています

も く じ

要家文書にのこる63年分の「日録」からわかること

小学校巡回展示「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」

／ 貝塚市文化財保存活用地域計画策定事業

文化財所有者などへのアンケート結果について

第129回かいづか歴史文化セミナー

現地見学会「和泉櫛とつげさんのルーツを訪ねて」を開催しました

／ 第130回かいづか歴史文化セミナー「かいづか家族の日」 関連事業

講演会「水間鉄道いまむかし」を開催しました

「俳人松瀬青々(せいせい)と昭和の水間焼講話会」を開催しました

／ 姉妹都市カルバーシティ市の日本庭園 - 歴史展示館の展示資料から⑧ -

孝恩寺 文化財収蔵庫 特別公開のお知らせ

文化財講座・展示

要家文書にのこる63年分の「日録」からわかること

本市指定文化財要家文書は、中世土豪（どごう、地域に土着している武士）の系譜をひく旧家要家にのこされた古文書で、51,285点を数えます。要家は江戸時代に代々畠中（はたけなか）村・神前（こうざき）村庄屋をつとめ、代々「源太夫」を名乗りました。1789（寛政元）年に岸和田藩の七人庄屋に加わったことから、多くの村方の古文書をのこしています。

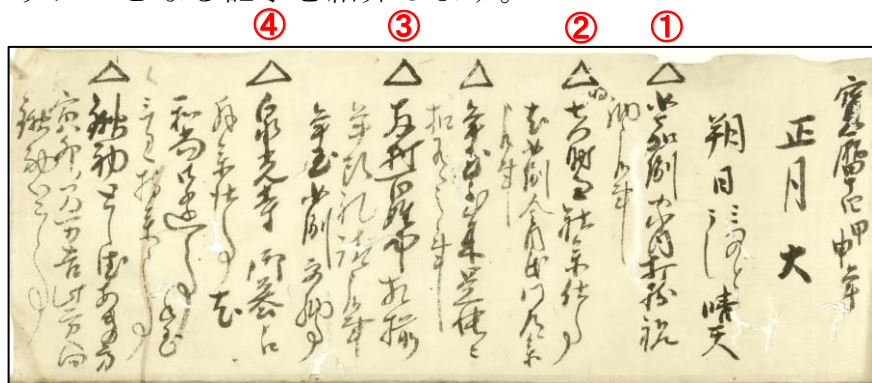
その中でもまとまってのこされているものの一群に「日録」・「日記」（以下、「日録」に統一）の表題のある横帳があります。毎日の天気始まり、①所有している田畑の耕作状況、②家族の行動、③村のできごと、④藩のできごと、などの順で、一日のようすが簡潔に記されており、後で見返すことを考慮した備忘録としての要素も強いと考えられます。記事は少ない日で100字程度、多い日では500字以上に及びます。多くは1～3年を横帳1冊に綴じています。のこされた「日録」のうち、もっとも古いものは1762（宝暦12）年2月1日から翌年9月20日まで書き連ねられたものです。また、もっとも新しいものは1841（天保12）年のもので、80年間に63年分の記録がのこされています。もちろん一人で書いたものではなく、少なくとも親子4代で書き継いできたものと思われます。

現在解読を進めている1764（宝暦14）年の「日録」

平成28年度に古文書講座の受講者の中から結成された自主学習グループ「古文書を読む会」は、月2回程度定例で実施している古文書講座ではボリュームが大きく、取り上げきれない帳面などを読み進めています。令和3年度から1764（宝暦14）年の「日録」を解読しており、すでに1月から6月までの半年分の解読が終了しています。今号では、これまで読み進めてきた記述から、トピックスとなる記事を紹介します。

<年始のあいさつ>

毎年恒例行事として、正月朔日（ついたち）（元日）（右写真）には、①「如嘉例家内打揃祝納申候事」…源太夫の家族がそろって年始のあいさつを行い、②「明七つ時（午前4時頃）過社参仕候事」…加治・神前・畠中・脇浜の4か村がお祀（まつ）りする神前神社（現在の市立西小学校の敷地に妙見（みょうけん）社や鹿島神社などの神社が集まっていた）にお参りしました。③「両村百姓中相揃年頭礼請申候事」…神前・畠中の村人から揃って年始のあいさつを受けました。④「泉光寺御墓（現岸和田市門前町）江拝参仕候事」…岸和田藩主の菩提寺である泉光寺へお参りしていました。3日には、藩主に「年頭御礼（1年の最初のあいさつ）」のため、明け六つ半時（午前7時）に岸和田城に上がりました。実際藩主に拝謁（はいえつ）する「御目見得（おめみえ）」は五つ半時（午前9時）には終わり、藩のご家来衆である「御家中様」にもあいさつを済ませ、願泉寺住職で貝塚寺内町の領主である「ト半（ぼくはん）様」に御礼に上がりました。別の年の「日録」にも同様のできごとが正月三が日に記されており、



1764（宝暦14）年正月朔日（元日）の『日録』（抜粋）

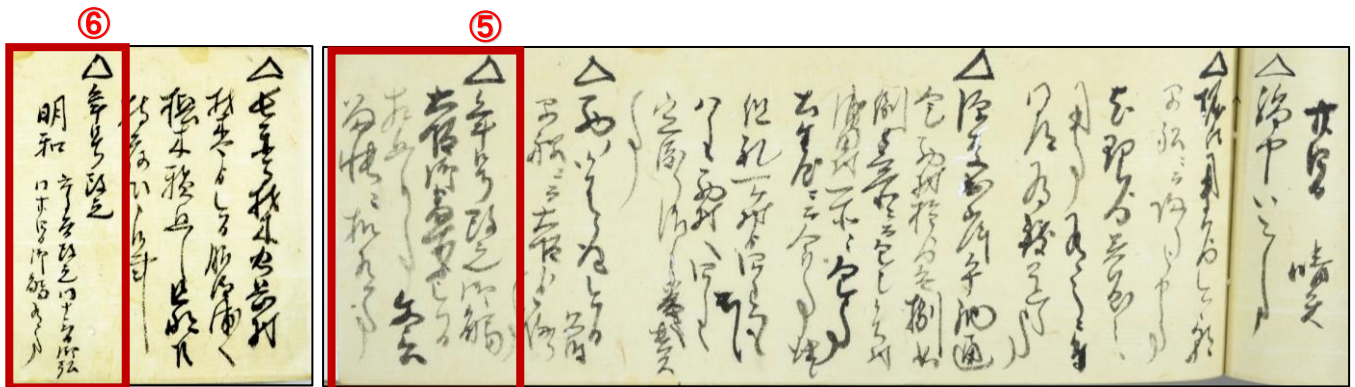
中・脇浜の4か村がお祀（まつ）りする神前神社（現在の市立西小学校の敷地に妙見（みょうけん）社や鹿島神社などの神社が集まっていた）にお参りしました。③「両村百姓中相揃年頭礼請申候事」…神前・畠中の村人から揃って年始のあいさつを受けました。④「泉光寺御墓（現岸和田市門前町）江拝参仕候事」…岸和田藩主の菩提寺である泉光寺へお参りしていました。3日には、藩主に「年頭御礼（1年の最初のあいさつ）」のため、明け六つ半時（午前7時）に岸和田城に上がりました。実際藩主に拝謁（はいえつ）する「御目見得（おめみえ）」は五つ半時（午前9時）には終わり、藩のご家来衆である「御家中様」にもあいさつを済ませ、願泉寺住職で貝塚寺内町の領主である「ト半（ぼくはん）様」に御礼に上がりました。別の年の「日録」にも同様のできごとが正月三が日に記されており、

恒例行事だったことがわかります。

< 6月2日の「明和」改元 >

6月2日には、年号が宝暦から明和に改まっています。改元は災害や天変地異などを理由に変えられることも多くありましたが、この時は後桜町天皇が2年前の1762（宝暦12）年7月27日に即位したことを理由としています。即位から2年も経っていますが、この程度の空白期間の後、改元されるケースは数多くみられました。

「日録」には6月24日の記事（下写真）に⑤「△年号改元御触大坂御番所方（より）今日相廻り候事、文言留帳ニ扣有事」…6月24日に大坂町奉行所から出された改元のお触れが回ってきたこと、⑥「△年号改元、明和、六月二日改元、同十三日御弘、同廿四日御触有事」…22日前の6月2日に「明和」と改元され、11日前の13日に年号が「御弘（おひろめ）」されたことがわかります。



1764（明和元）年6月24日の『日録』（抜粋）

なお、明治維新により慶応4年が明治元年と改められた際に、一世一元の制が制定され、一天皇の在位中には一つの年号のみを使うように定められました。

また、この年には、4月6日に<朝鮮通信使殺害事件>が起きていますが、岸和田藩が御馳走人（ごちそうにん）大名（＝接待役）をつとめていたため、「日録」に事件の詳細が記されています。内容については、古文書講座56「岸和田藩と朝鮮通信使」でテキストとして取り上げており、本紙66号でも紹介しています。

以上のように、「日録」はさまざまな事件やできごとなどを、庄屋源太夫の視点でとらえた記述がなされており、当時のものの考え方や思いなどに触れることができる貴重な資料といえます。また、過去の記録と突き合わせていくことが重視されている災害に関する記録も見られます。このことから、63年もの長期にわたる「日録」の解読が、江戸時代の泉州地域の人びとのくらしを掘り起こすことになると期待されます。

貝塚市郷土資料展示室特別展

岸和田藩の七人庄屋 要家文書の世界

今回紹介した「日録」のほか、令和5年3月に追加指定した古文書【本紙80号で紹介】を含め、本市指定文化財要家文書を紹介します。

会 期 令和6年3月9日（土）～4月21日（日）

場 所 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

観覧料 無料

休室日 火曜日、3月20日（水）、4月3日（水）

小学校巡回展示「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」

令和5年9月7日から11月24日まで、昨年度の「岩橋善兵衛の科学技術」に引き続き、今年度も市内11小学校で、巡回展示「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」を開催しました。

「東洋の魔女」は大日本紡績株式会社貝塚工場（通称「日紡貝塚」）女子バレーボールチームの活躍を評して付けられた呼び名です。1961（昭和36）年の欧州遠征での22戦全勝、とくに三大陸選手権大会での優勝、親善試合で当時最強といわれていたソビエト連邦（現在のロシアと周辺諸国で形成された連邦国家、正式にはソビエト社会主義共和国連邦）を打ち破るなどの華々しい成果がありました。

この展示は1964年の東京オリンピックでの金メダルに至る過程やその後にスポットを当てたものです。1964年の東京オリンピックにおける、「東洋の魔女」の活躍を紹介した雑誌をはじめ、当時の写真などを展示しました。

多く子どもたちが展示品や写真を興味深く見てくれました。



サイン色紙と雑誌に注目が集まり、展示ケースが隠れるほど

貝塚市文化財保存活用地域計画策定事業

文化財所有者などへのアンケート結果について

本市では、「貝塚市文化財保存活用地域計画」を作成するにあたり、文化財の保存と活用の現状や課題を把握する目的で、文化財の所有者や管理者などを対象にアンケート調査を実施しました。今回はその中から、有形文化財（建造物と美術工芸品）について、①文化財の保存状態、②災害や盗難などへの備え、③公開・活用の現状、の概要をご紹介します。

まず、①文化財の保存状態ですが、「状態はよい」が最も多い結果になりました。しかし、「傷みがある（心配している）」とする回答も約20%あり、詳細な調査や修理が必要なものも少なくないことがうかがえました。次に、②災害や盗難などへの備えですが、「特に何もしていない」という回答が最も多くを占めました。これは防災防犯機器の設置や地震対策には多額の費用が掛かるため、具体的な支援が必要であると考えられました。③公開・活用の現状については、「公開している」と「公開していない」とする回答がともに40%以上を占め、大きく分かれました。公開していない理由としては、信仰の対象であり公開になじまないという意見や、受け入れ態勢が整っていないという意見がありました。

文化財の公開・活用は地域の歴史的魅力を広く伝え、観光などにより地域の活性化につながることを期待されますが、一律に進められるものではなく、所有者や管理者の状況や、歴史的な経緯に十分配慮する必要があることがよくわかりました。

今回のアンケートに協力いただいた多くの所有者、管理者の方々に感謝申し上げます。



寺内町の町家
国登録有形文化財吉村家住宅

第129回かいづか歴史文化セミナー

現地見学会「和泉櫛とつげさんのルーツを訪ねて」を開催しました

令和5年10月1日（日）午後1時30分より、貝塚市の伝統工芸「和泉櫛」（つげ櫛）発祥の地とされる澤地区をめぐる現地見学会を開催しました。

当日は、南海本線二色浜駅に集合し、周辺の発掘調査で中世の櫛片が出土した澱池（とどのいけ）、櫛の神さま八品（やしな）神社の神宮寺（じんぐうじ／神社に附属して建てられた寺院）といわれる澤の薬師堂、旧紀州街道と八品神社参道の分岐点、八品神社、和泉櫛の伝説の一つがのこる二色の浜公園を見学しました。特に八品神社では、沢町会の皆さんの協力を得て拝殿を開放していただき、拝殿に掛けられた櫛形絵馬や奉納櫛額、紀貫之（きのつらゆき）の和歌が刻まれた扁額（へんがく）、拝殿に設置された櫛資料室を見学させていただきました。

参加者からは、「今まで知らなかった澱池や紀州街道と八品神社参道の分岐点などを案内していただき、当時に想いを馳せました」といった感想をいただきました。



八品神社の鳥居の脇（参道）で
解説を聞く参加者の皆さん

第130回かいづか歴史文化セミナー

「かいづか家族の日」関連事業

講演会「水間鉄道いまむかし」を開催しました

令和5年12月2日（土）午後2時より、市立山手地区公民館1階ホールにおいて、水間鉄道の開通までのあゆみと現在のさまざまな取り組みについての講演会を開催しました。本講演会は、水間鉄道株式会社の協力を得て、本市教育委員会と市民団体すいてつ沿線魅力はっしん委員会が主催した事業です。

第1部では、社会教育課職員より水間鉄道開通に至る過程を話しました。水間鉄道を最初に発案した本市馬場出身の川崎覚太郎が記した日記の内容を中心に、数名の有志らによる実地踏査の様子や資本金集めの苦労などを取り上げました。

第2部では、水間鉄道株式会社代表取締役の藤本昌信さんより、水間鉄道の取り組みについてお話しいただきました。ご自身が水間鉄道を使って祖母とともに水間寺へ参詣した幼少期の思い出話から始まり、鉄道を存続させるために不可欠な乗客数を確保するさまざまな取り組みについてお話しいただきました。講演後の質疑応答では、大学や企業との連携をもっと進めることはできないかななどの活発な意見交換が行われ、盛況の中で終了しました。



藤本さん（壇上）の講演を聴く参加者の皆さん

「俳人松瀬青々（せいせい）と昭和の水間焼講話会」を開催しました

令和6年1月21日（日）午後2時より、水間門前町喫茶図書室において、「俳人松瀬青々と昭和の水間焼講話会」を開催しました。

松瀬青々は、明治30年代から昭和10年代にかけて活躍した大阪を代表する俳人の一人です。継母の旧姓が水間であったことから、水間の地に強い関心を持ち、1922（大正11）年に水間と木積（こつみ）の地を訪れて以来、足繁く貝塚の地を訪れ多くの俳句をのこしました。青々が訪れた木積の孝恩寺には、重要文化財の木造弥勒菩薩坐像を題材とした俳句を刻んだ句碑「弥勒仏（みろくぶつ）の下生（げしょう）をいつと 囀（さえず）れり」が本堂の国宝「孝恩寺観音堂」（釘無堂）前に建てられています。

講話会では、青々の生涯、貝塚との関わり、貝塚で詠んだ俳句の数々、青々と親交のあった水間焼の陶工中野悟月（ごげつ）との関わりなどについてお話ししました。また会場では、中野悟月が制作した昭和の水間焼約30点なども展示しました。参加者からは、「貝塚市にもこんな有名な焼き物や俳句があったなんて初めて知りました！」といった感想をいただきました。



青々についての講話を聴く参加者の皆さん

姉妹都市カルバーシティ市の日本庭園-歴史展示館の展示資料から⑧-

半田にある貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）では、本市の姉妹都市**カルバーシティ市**（アメリカ合衆国カリフォルニア州）の展示コーナーを設置しています。このコーナーでは、1974（昭和49）年、両市の友好の証として本市がカルバーシティ市に築造寄贈した「**日本庭園**」についても紹介しています。日本庭園は、カルバーシティ市内の郡立カルバーシティ・ジュリアン・ディクソン図書館前にある約340㎡の庭園で、本市から6名の使節団が派遣され、現地の人びとの協力を得て、3週間以上をかけて築造されたものです。

このたび、使節団として派遣された造園師、本市三ツ松在住の中塚義隆さんより新たな関係資料をご寄贈いただき、令和5年8月より上記展示コーナーで展示しています。新たな資料は、中塚さんが着用した使節団のタスキや麦わら帽子、造園作業を撮影した写真などです。中でも、現地での採石のために訪れたフーバードムで採取した石で制作された「**友愛盆石**」は、大小の石でアメリカと日本を表現したもので、中塚さんが滞在中に交わした友情がこれからも変わらず続いて欲しいという願いを込めて制作されたものです。

ぜひ歴史展示館にご来館いただき、新たに加わった資料をご覧ください。



中塚さん制作の「友愛盆石」

孝恩寺 文化財収蔵庫 特別公開のお知らせ

令和6年2月23日（金・祝）から、本市木積にある孝恩寺において、令和6年春の特別公開が行われています。本特別公開では、保存修理事業を終えた国宝「孝恩寺観音堂」（釘無堂）の他、普段は文化財収蔵庫に安置されているため拝観できない、重要文化財の彫刻（仏像）群などをご覧いただくことができます。ぜひこの機会に、孝恩寺をご訪問いただき、お寺が所蔵する多くの文化財をご鑑賞ください。



国宝「孝恩寺観音堂」（釘無堂）



重要文化財の彫刻（仏像）群

公開日 令和6年3月2日（土）、3日（日）、5日（火）、9日（土）、10日（日）、12日（火）、17日（日）

観覧時間 ①午前10時～正午

②午後1時30分～3時30分

※文化財収蔵庫での孝恩寺のご住職、学芸員などによる解説は、当日のスケジュールなどにより、不定期に開催します。

場所 孝恩寺（貝塚市木積798）

※水間鉄道「水間観音」駅から徒歩約20分です。

定員 ①・②とも50名

拝観料 1名、1回につき1,000円

※小人および団体割引はありません。ただし、未就学児は無料です。

申込 下記孝恩寺ホームページの「ご参拝・特別拝観」ページにて受け付け中。

また、団体（20名以上）での拝観希望の場合は、3月17日（日）（3月16日は除く）までの期間内で、お寺の法要などに重なっていないければ、予約を受け付けています。詳細は、下記孝恩寺ホームページの「お問い合わせ」ページよりお問い合わせください。

孝恩寺ホームページ <https://ko-onji.jp>



本公開事業の拝観料につきましては、孝恩寺が所有する貴重な文化財を未来に伝えるため、その維持管理などに役立てるとともに、地域の活性化を図る事業費に充てられます。

文化財講座・展示

令和6年

◆ 3月



13日・27日の水曜 午後1時15分～3時45分
古文書講座72 **1班**
「岩橋善兵衛の望遠鏡と天文」

15日・29日の金曜 午後1時15分～3時45分
古文書講座72 **2班**
「岩橋善兵衛の望遠鏡と天文」

◆ 4月



10日・17日・24日の水曜 午後1時15分～3時45分
古文書講座72 **1班**
「岩橋善兵衛の望遠鏡と天文」

5日・12日・19日の金曜 午後1時15分～3時45分
古文書講座72 **2班**
「岩橋善兵衛の望遠鏡と天文」

郷土資料展示室

3月9日(土)から

特別展「岸和田藩の
七人庄屋
要家文書の世界」

4月21日(日)まで

貝塚市歴史展示館 企画展「写真で見る昭和の貝塚」

市制施行80周年を記念して、昭和期の市内の風景写真などを紹介しています。

会 期 令和6年4月28日(日)まで
(開催中)

場 所 貝塚市歴史展示館
(ふるさと 知っとこ! 館)

観覧料 無料

休館日 火曜日、3月20日(水)



展示中の写真から>>
国鉄阪和線東貝塚駅 1960(昭和35)年

歴史展示館の最寄り駅である東貝塚駅の構内の写真。上下線2つのホームは地上の構内踏切(現在は地下道)でつながれており、遮断機がないため安全確認をする駅員の姿が見えます。

かいづか文化財だよりテンプス82号



令和6年3月1日発行
貝塚市教育委員会
〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1
Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053
Email: bunkazai@city.kaizuka.lg.jp
※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。
年3回発行: 各1,000部



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん
貝塚市特産品「つげ
櫛」をモチーフとした
デザイン。